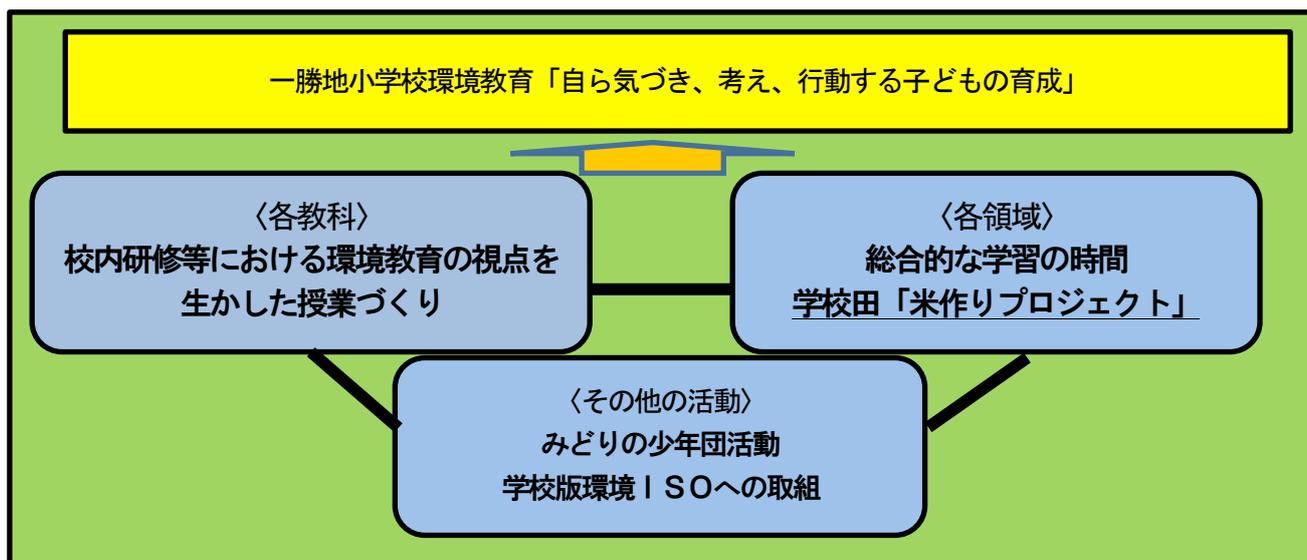


平成28年度ニッセイ緑の財団環境推進事業取組報告書

球磨村立一勝地小学校

1 一勝地小学校環境教育「米作りプロジェクトを中心とした環境学習」取組構想図



2 本校の取組について

一勝地小学校は、昨年度から学校周辺の棚田を利用した米作り体験（米作りプロジェクト）を始動させた。全校児童による米作り体験（田植え・稲刈り）のみならず、6年生を中心とした総合的な学習の時間での調べ学習や成長観察を行うことで、米作りと学校周辺の環境が深く関わっていることに児童が自ら気づき、環境を保全しようとする態度を育てることを目標としている。

3 取組の実際

(1) 田植え

田植えは、棚田保存会長をはじめ、地域の方々の協力の下、全校児童で取り組むことができた。苗の手植えと機械植えの両方を体験させていただいた。田植え後の児童の感想の中には、「田植えをする苦勞が分かった。」とあった。貴重な体験となった。



(2) 観察・かかし作り

6年生の総合的な学習の時間では、毎月稲の成長観察と9月にはかかしづくりを行った。稲の成長観察では、稲の背丈の測定や田んぼの中に住んでいる生き物を記録した。かかし作りは、実った穂を守るために児童が自らデザインし製作した。毎月の観察で稲の成長を目で見て感じる事ができた。



(3) 稲刈り

稲刈りは、田植えの時と同様、地域の方々の協力の下、全校児童で取り組むことができた。カマを使い、手作業で稲を刈り取り、竿がけも行った。児童は、成長した稲を収穫する喜びを感じることができた。



(4) 水質調査

児童が調べ学習において、おいしいお米ができる条件を探したところ、①水②土③温度差が大事だということが分かった。そこで、棚田に使われている水路の水質を調査したところ、大変きれいな数値が出た。また、田んぼの中の水も調べると水路よりもきれいな数値が出た。この結果から、田んぼの中には、さらに水質をきれいにする生き物等が存在するのではないかという疑問も生まれ、さらに追究していくことになった。また、水路に水を供給している川の水質調査も行った。CODパケットテストの他にも、水生生物を調査したところ、水質の一番きれいな「I 快適な水環境」に分類することができた。（熊本県球磨地域振興局保健福祉課環境部の資料より）



(5)その他の活動

①森林学習

8月に村内の小学校5年生の宿泊交流学习において、森林についての学習を行った。熊本県南広域本部球磨地域振興局林務課の方を講師としてお招きし、森林の役割について話していただいた。子どもたちも熱心に学習をしていた。その後、間伐材を使った木工教室も行われた。



②シイタケのこまうち体験

一勝地小学校の5・6年生で構成する「緑の少年団」の活動として、シイタケのこまうち体験を行った。グループに分かれ、電動ドリルで穴を開け、木槌を使ってこまうちをした。作業後の原木は、一勝地の森の風通しがよく、直射日光の当たらない場所に寝かせた。2年後の秋に収穫することができる。



③花いっぱい運動

本校では、全校児童で花いっぱい運動に取り組んでいる。6月に種から育てた花の苗を自分のプランターに移植し、校舎の玄関周辺に飾って育てた。花はマリーゴールド、サルビア、ペチュニアである。水やりや草取り、花詰み等の世話を続け、自分の花が元気に成長する様子に喜んでいる姿がしばしば見られた。秋からは、パンジー、ビオラ、葉ボタン等を育てている。



④PTA奉仕作業

PTA奉仕作業において、「一勝地の森」の清掃活動を行った。大きなクスノキから落ちた葉や枝、雑草等を中心に整備を行った。おかげでさらにきれいな森となり、環境整備を行うことができた。



⑤学校版環境ISOの取組

	5・6月	7・9月	10・11月	12月
①必要のないときに電気を消すことができたか。	66.1	94.8	89.7	91.2
②バケツでぞうきんを洗うことができたか。	96.4	81.0	79.3	91.2
③歯磨きの時にコップを使うことができたか。	98.3	98.3	94.8	98.2
④給食を残さずに食べることができたか。	98.3	96.6	98.3	98.3
⑤ものを大切に使ったり分別したりできたか。	76.8	81.0	82.8	77.2
⑥花の世話を忘れずにしたか。	85.7	73.7	37.9	38.6

学校版環境ISO意識調査(平成28年5月～12月学校全体の達成率)

上表から、児童の「節電」や「節水」への意識がとても高いことがわかった。給食の残菜ゼロの目標も概ね達成することができた。しかし、「ものを大切に使ったり、分別したりすること」や「花の世話を忘れずにする」ことにおいては、学年によって意識を高める必要がある。この課題は、前年度から継続した課題であり、今後も全ての教育活動において意識していくべき重要課題である。

4 見直し(成果:○と課題:▲)

- 環境教育の一環として米作りに取り組むことで、児童が自ら課題を発見し探求的に学ぶことができ、地域の自然や人々とのつながりに気付くことができた。
- 収穫したお米は、学習発表会で地域の方々に販売したり、熊本地震で被災された小学校へ支援米として送ったりすることで、地域に還元することができた。
- ▲ 稲の成長の観察・調べ学習はできていたものの、実際にはお世話を地域の方に頼りきりだった。
- ▲ 学校全体の環境ISOを振り返ると、児童一人ひとりの環境に対する意識や学級での取組に対する意識の差が大きい。特に「花の世話をすること」に関しては、全体的に達成率が低かった。一人ひとりの取組の様子を的確に把握しながら、児童に活動の意義や目的をしっかりと理解させ、学校総体として学校版環境ISOを意識した学校生活や家庭生活も送ることができるよう、取組の工夫・改善を行っていきたい。